

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
会場整理費：700円 お問合せ：03-6684-6692

2月9日（土） 企業活動と宗教一宗教的理念なき企業は消え去って行く
柴田文啓 先生 臨済宗開眼寺住職・元横河アメリカ社社長

2月23日（土） 生きること、はたらくこと一菩薩行として
末木文美士 先生 東京大学名誉教授

3月9日（土） 通俗道徳と浮世の思想
島藺 進 先生 上智大学教授

3月23日（土） 罪としての労働と慈悲行としてのはたらく
保坂俊司 先生 中央大学教授

4月13日（土） 迷いからの脱出一私のオウム事件
楠山泰道 先生 大明寺住職・日本脱カルト協会顧問

4月27日（土） 迷いからの脱出
山崎龍明 先生 武蔵野大学名誉教授

5月11日（土） 迷いからの脱出
福田亮成 先生 大正大学名誉教授

5月25日（土） 迷いからの脱出
田島照久 先生 早稲田大学名誉教授

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 お問合せ：06-6346-7000

3月15日（金） 釈尊から親鸞聖人へ
丘山 新 先生 浄土真宗本願寺派総合研究所所長

5月17日（金） 演題未定
田代俊孝 先生 仁愛大学学長

いのち尊し

「田舎」

第22号
いのち尊し
2019年2月1日
公益社団法人 在家仏教協会
〒101-0062
東京都千代田区 神田駿河台3-3
五明館ビル202号
TEL 03-6684-6692
FAX 03-6684-6709

船村知世

（会社員、37歳）

私は、在家の熱心な法華経信仰の家に生まれ育ちました。二十歳のころ、父が『法華経』の提婆達多品の話をしてくれました。提婆達多は悪人成仏、竜女は女人成仏の例として登場する物語です。

先生の『新しい仏教のこころ』の「行為によりて聖者となる」のくだりを読むよう勧められました。

*

二人は長幼・生まれの貴賤・性別のほか、提婆達多は人里離れた山中の出家修行、竜女は海中の在家修行など、正反対な存在として描かれています。しかし、三悪道に生まれた竜女は今世に法を聞くことで瞬時に成仏します。提婆達多も過去世に法を説いたことで、遠い未来ですが、成仏します。聞くにせよ、説くにせよ、いずれも行いによって成仏するのです。

父からは、生まれではなく行いにより尊いという仏法が潜んでいる、と教えられました。眼が開かれる思いでした。そして増谷文雄

先生の『新しい仏教のこころ』の「行為によりて聖者となる」のくだりを読むよう勧められました。大学卒業後、金融機関に就職しました。朝早くから夜遅くまで働き、上司から認められることも増えました。成果も上がっていきました。次第に他人から評価されることを価値と思うようになりました。地位も定まったように思いました。ところが結婚の予定を告げると、退職を促されたのです。そのころはまだあったのです。女性性であるがゆえのことでした。

私は一体何を大切にできたのだろうと悩みました。その時、提婆達多品の話が脳裏をよぎったのです。生まれ持った女性性はどうすることもできません。人が生まれにより尊いのではなく、行いにより尊いのではないかと、行いに

生まれ育った宗教的環境が仏教の門への入り口でした。そして実生活の中で仏教を認識したとき、その門の扉をさらに押し開いたように思います。どちらも私の仏教との出会いです。結局、結婚して四年ほどで転職になりました。新しい支店が開設され、その支店を円滑に回すことが職務です。

*

より尊いのであれば、女性性を理由にした不遇に泣くことはないと思いました。行いにより尊いものとなる道を歩もうと思ったのです。仏教を支えに生きていこうと思つた瞬間でもありません。

になり、離任の挨拶に一つの話をしてみることにしました。高校生の時に聞いた話がもとです。ある旅客船が嵐に遭い、難破します。国籍も言語も性別も年齢も職業も違う人たちが無人島に漂着します。言葉が通じません。島にあるものには限りがあります。救助船のくる日まで、何年も共に暮らさなければなりません……。

生まれ育った宗教的環境が仏教の門への入り口でした。そして実生活の中で仏教を認識したとき、その門の扉をさらに押し開いたように思います。どちらも私の仏教との出会いです。結局、結婚して四年ほどで転職になりました。新しい支店が開設され、その支店を円滑に回すことが職務です。経験豊富な社員には仕事のやり方へのこだわりがあります。若手社員やパート社員には不慣れな業務も多くて意に沿わないこともあります。そこで仕事上の衝突がたびたび起こりました。話し合いを重ねましたが、完全な改善はできませんでした。

話すことに躊躇もありました。しかし、価値あることを聞くことは上求菩提、説くことは下化衆生ではないか。それが話す勇氣でした。その後、同僚から「今はすぐいいんだよ、驚くでしょう」とメールが届きました。

この一冊

『いのち尊しー加藤辨三郎著作集』（在家仏教協会）

相羽 顕
（会社役員）

この本のハイライトは、「下品下生（げぼんげしょう）」にございます。

大正十一年の晩春、著者・加藤氏は金子大栄先生の講演会を聴きに行かれました。先生は「観無量寿経」の講義をされ、著者はその謹厳な態度にひきつられ、しまいまで聴聞しました。結局、この日の講演がその後の加藤氏の半生を導かれました。

その時に、ただ一つ、著者が覚えた熟語が「下品下生」でした。

在家仏教協会 四つの信条

- 一、 釈尊の説法虚言ならずと信じていること。
- 二、 釈尊の説法の内容そのものは永遠の真理であるが、それを大衆に知らせる手段は、時と処と人に応じつねに新鮮でなければならないと信じていること。
- 三、 呪術らしきものは一切排除すること。
- 四、 在家生活のまま仏教に生きようとしていること。

ご寄付のお願い

当協会は、東京、大阪にて講演会活動を行っておりますが、その多くは寄附金によって賄われております。講演会の存続のために温かいご支援をお願い致します。

協会への寄附金は税制優遇が受けられます。個人様からの寄附と法人様からの寄附について、事例を上げてご案内いたします。

★所得税
所得金額から「寄付金(所得金額の40%が限度)ー2,000円」を控除することができます。

★事例
年中の総所得金額が500万円、寄附金の合計額が20万円の場合
20万円ー2,000円＝19万8,000円が、総所得金額より控除されます。

★法人税
法人が支出する寄付金は、その法人の資本金等の額、所得の金額に応じた一定の限度額までが損金に算入されます。このとき、公益法人に対する寄付については、一般寄付金の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられております。

小林一茶の句に「下々も下々下々の下国の涼しさよ」というのがありました。これはまさに念仏の境地を表しています。自分をどうもならない「下の下の人間」と自覚することで、非常に静かな境地が聞けるとい意味です。

何が起きてても他人のせいにしてない、つねに感謝と懺悔の心で念仏を称えれば、まことに気持ちのよい天空海闊(てんくうかいかつ)の境地が生まれ、それがいわゆる悟りとなります。

著者の加藤氏は「オレが、オレが」と出しゃばることが少なくない、自分に値打ちをつける事の無意味さを知り、自分は凡夫でありゼロの人間だと自覚させられるようになったそうです。

この『いのち尊し』は加藤辨三郎先生の心の底を流れる深い真情

事例

資本金が10億円、年中の所得金額が1億円の場合

- ① 一般損金算入限度額＝(10億円×2.5/1000)＋(1億円×2.5/100)×0.25＝125万円
- ② 別枠の損金算入限度額＝(10億円×3.75/1000)＋1億円×6.25/100)×0.5＝500万円

したがって、①②の合計額625万円の損金算入が認められます。

在家仏教通信

講演会動画をアップしました

労働の場と個の確立

本多弘之先生

※ID (親鸞仏教センター所長)

.. 各自会員番号

パスワード: zaikbukkyo

「大法輪三月号」へ在家仏教講演会の講演録が掲載されました

中村元先生と仏教

前田専學先生

(東方学院院长)

です。企業家であり、科学者であり、仏道を歩んだ真摯な在家仏教者の軌跡として、一人でも多くの方にこの著作集をお読みいただけますことを念願しております。

ユヴァル・ノア・ハラリ著『サピエンス全史』(上・下、河出書房新社)

匿名希望

正月のNHK衛星放送で“衝撃の書”として紹介されていた一冊。日本では二年前に刊行され、版を重ねている。サピエンスが他の人類種や諸生物を凌いで、どのように植物連鎖の頂点に立ち、地球を支配するに至ったのか。人類学、生物学、経済学など幅広い知識を駆使して、歴史の流れを壮大なスケールから俯瞰している。

サピエンスが台頭できた理由は、脳の発達によって、虚構(フィクション)をつくり上げる能力を獲得し、多数の力をまとめ上げることと成功した点にあると記す。農業革命とこれに続く科学革命を経た近代社会までの歴史を振り返ると、サピエンスが次々と創造した虚構の足跡が見て取れると言う。古代遺跡の壁画、王制の支配体制、

「在家佛教」のバックナンバーをお譲りします

「在家佛教」バックナンバーをご希望の方は事務局までお申し込み下さい。

今月は、2017年の講演録を掲載しました。在庫切れの際はご容赦下さい。一冊100円の送料のご負担をお願い致します。

原稿をお待ちしています

◇随想「仏教と私」(八百字以内)
人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動をお書きください。

◇読者からの手紙(八百字以内)

講演会(講演録)の感想などをお書きください。

◇コラム「この一冊」(八百字以内)

感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出の本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

*

原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、よろしければ職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用分には薄謝をお送りします。原稿の送り先は、〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-3-202 在家仏教協会「いのち尊し」係。メールはkaminura@zaikbukkyo.comまで。